

2023年3月31日

## 留学報告書

南山大学長

ロバート・キサラ殿

経済学部教授

蔡 大鵬

### 1. 留学期間

2021年9月1日～2023年2月28日

### 2. 受入機関

21st Century China Center at the School of Global Policy and Strategy, University of California, San Diego

### 3. 活動報告

報告者は、貿易政策等の政治経済学的分析を展開する目的として、上記機関に留学し、研究活動を行なった。

同機関において、Barry Naughton 教授、直井恵准教授、Ruixue Jia 准教授、Lei Guang センター長らの指導・助言を受けることができた。さらに、研究活動の一環として、大学院の授業参加を通してこれまでの研究を深めつつ、関連する領域に関する最新の研究動向や研究手法に触れることができ、また発表や質疑応答を通して、同機関の大学院生、とりわけ、博士後期課程の学生らとも研究交流をした。今回の留学で得ていたこうした学術の交流関係を共同研究の実施などで引き続き維持したいと考えている。

一方、コロナ禍、とりわけオミクロン株の影響を受け、アメリカ各地の関連研究分野の研究者を訪問することでこれまでの研究ネットワークの拡大を図るという当初の計画がほとんど実行できていなかった。今後、コロナ禍の収束に伴い、海外との行き来の制限が大幅に緩和される場合、今回の留学ではできなかった研究交流を積極的に行っていきたい。

研究期間中において、関連文献を精査しながら、中国の産業・貿易政策の実態と問題点に

ついてまとめつつ、交渉ゲームの分析手法を取り入れながら、米中間に繰り広げられている貿易戦争の一因ともなった中国政府による「研究開発補助金および強制的な技術移転が採用されるのはなぜか」等について、国内外企業間の戦略的競争関係、企業と政府間の政治プロセス、また政府間の戦略的相互作用を明示的に考慮する理論モデルの構築と解析を行い、多国籍企業や投資国の社会的厚生等へのインパクトについても分析した。関連研究成果を論文「Strategic Potential of R&D-intensive FDI Subsidy: Host Government's Endogenous Policy Choice」(with Yingzi Long) にまとめており、現在修正・再投稿中である。また、ポートランドで開催する Western Economic Association International (WEAI)の年次大会(2022年7月)においても、同論文を報告することができ、参加者から修正に資するコメントを多数いただいた。

さらに、中国企業のデータを用いて、環境規制が企業のイノベーションと環境パフォーマンスへどのように影響するのかについても分析し、関連研究成果を学術論文“Environmental Regulation, Innovation, and Environmental Performance: Evidence from China (with WU, Ge and LU, Zhongyang)”にまとめ、公刊することができた (*Economic Science*, Vol 70, pp. 79-91)。

なお、留学中に、これまでのアイデンティティ経済学に基づく保護主義的な貿易政策に関する理論研究に対して、UCSDの研究者らよりコメントをいただき、それをきっかけに、貿易政策を分析する際、世論調査などのデータ解析からアイデンティティの本源に迫る必要性を感じた。そこで、理論と実証の両面から、「経済連携協定がいかに内生的に出現するのか」という問題の解明に挑む研究計画を策定・応募し、科研費基盤研究C(23K01387、令和5~8年度、代表)として採択された。

以上